

## 平成 27 年度 第 1 回常任委員会議事録

1 期 日；平成 27 年 8 月 6 日（木）

2 会 場；奈良県桜井市・桜井市立中央公民館 研修室

3 出席者；釜井、池田、根岸、雨尾、中村、安藤、豊田、松本、和田、伊勢、恒松、平、多田、坂上、本間(山口県)、田熊(山口県)、村田

### 4 議事

1. 挨拶；全国高体連 F 部長（釜井）

2. 後催地挨拶；山口県実行委員会（本間）

3. 27 年度総体について（奈良県実行委員会；村田）

- ・参加者・参加校数の訂正確認

- ・連絡事項

- ☆申し合わせ事項、式典、配布物、弁当、用具検査、競技会場、練習会場、駐車場、救護、シャトルバス、役員バス等について説明あり

- ・ I D カードは、種目によって色を変えている

- ・部旗の掲示、競技場内での練習について注意事項あり

- ・選手観客席は地区別に指定、一般客席の選手使用や応援使用はできない

- ・用具は、用具置場(体育館 2F ブロック別)へ入れる

- ・練習会場は、使用できる日程が異なっている

- ・医師・看護師は、人が変わるが毎日常駐する

4. 第 40 回選抜大会（山口県；本間）

☆実施要項について説明あり

期日、会場、日程、参加申込み(昨年同様 HP からダウンロード)、参加料、宿泊、組合せ抽選、用具検査、練習会場等について説明あり

- ・申込み締め切り期日は、1 月 27 日(水)必着

- ・参加資格(3)に訂正あり 平成 9 年 4 月 2 日以降→平成 8 年 4 月 2 日以降 に訂正

- ・宿泊は、日本旅行に依頼する

- ・13 宿泊の「電車、バス」を公共交通機関に変更

- ・プログラムに用具検査判定基準、日程等を掲載して欲しい → 準備する

- ・実施要項等の HP アップを早めにできないか→競技委員会の兼ね合いがあるので検討する

- ・事前に実施要項等を HP 担当に送っておき、競技委員会後すぐにアップできるようにしておく  
と数日は早くアップできるのでは？

5. 平成 28 年度総体について（山口県；本間）

☆期日、競技会場、競技・会議日程、練習会場、参加申込み、宿泊等について説明あり

- ・開会式は、岩国市民会館を予定している。その他の会議は、岩国市総合体育館で行う

- ・練習会場は 3 カ所を予定。岩国高校が甲子園に出場する場合は、使用不可となるため岩国市立平田小学校に変更となる

- ・参加申込みは、実行委員会 HP からダウンロードする方式、6 月 20 日(月)締め切り

- ・宿泊は J T B が手配する。ほぼ岩国市内に宿泊、一部市外の 1 時間県内の場所となる

- ・交通手段は、公共交通機関の便が悪いため、タクシーを利用して欲しい

- ・1 期日の競技の団体対抗を学校対抗に訂正

## 6. 28年度以降の全国大会について

(総体)

- ・30年度総体は愛知県知多市の予定であったが、変更になる可能性がある
- ・31年度総体はほぼ鹿児島県で固まったようである
- ・32年度総体については後で報告がある
- ・33年度総体の北信越ブロックは、福井県で調整中

(選抜)

- ・29年度選抜は石川県金沢市近辺で調整中
- ・30年度選抜は南九州を中心に調整する？(九州・四国・中国の常任委員で検討)
- ・31年度選抜は、北海道、南東北で調整？(北海道・東北の常任委員で検討)
- ・32年度は中日本(北信越・東海・近畿)の順番になる

## 7. 議事

(1) 報告事項

### ①27年度前期専門部行事報告 (安藤)

- ・前期行事について説明あり

### ②27年度第1回競技委員会報告 (伊勢)

- ・競技員会で話し合われた内容の概要について説明あり
- ・インターハイ個人・学校対抗3連覇表彰について  
→(個人)松山選手・(学校)東亜学園田中監督へ表彰状を授与する

### ③27年度前期全国高体連報告 (釜井)

#### (1)競技専門部簿外資産について説明あり

- ・本専門部に対する調査は報告済み

#### (2)経費削減について

- ・引き続き努力して欲しい→テスターを購入し地元負担を減らすことも検討している

#### (3)32年と総体について

- ・正式に北関東4県から回答があった  
→4県で8競技を開催。フェンシングは入っていない

### ④27年度前期日本協会報告 (釜井)

- ・6月の総会で役員への信任があった。高体連からは釜井部長が入っている。理事の人数も15人から20人に変更になった
- ・不正経理問題の処理について説明あり
- ・日本協会会長・専務理事から本専門部へ懇談会の申し入れあり

(2) 協議事項

### ①26年度専門部決算報告 (根岸)

【承認】

☆収入、支出の各項目について説明あり

- ・奈良選抜の計上経費が補助金と本部役員経費の2重支出について説明あり  
奈良実行員会の会計上、補助金を一度支出して、後に戻すということになった。決算処理が遅れたため返金が年度内に間に合わなかった。見かけは2重になっているが実際は2重支出にはならない。
- ・HPの更新が多かったため、年間補修費を増額した
- ・期間の年度に訂正あり 自平成24年→平成26年に、至平成25年→27年に訂正

☆監査報告について、坂上監事から説明あり

### ②27年度専門部行事予定案 (安藤)

【承認】

- ・27年度行事について説明あり
- ・強化普及事業(海外指導者研修)について説明あり(恒松)

③27年度専門部予算案（根岸）

【承認】

- ・期間の年度に訂正あり 自 平成26年→平成27年に、至 平成27年→28年に訂正
- ・収入・支出について説明あり
- ・予算書は、2月に作成しているため奈良の件が反映されていない。決算で報告する

④競技委員会提案事項（伊勢）

☆団体枠、タイムテーブル、用具検査、監督の兼任、参加料について説明あり

- ・全種目24チーム出場でブロック割を提案あり
- ・タイムテーブルは、初日の午後から試合に入る形で提案あり
- ・用具検査はできるだけ簡略化する方向で提案あり
- ・監督の兼任については、別紙にある通り2人登録でどちらがベンチに入っても構わないで提案あり
- ・参加料については開催地のことを考えて、別紙資料で提案あり

(意見)

☆団体枠について

- ・出場枠について補足説明が欲しい

→平成8年の選抜枠と北海道・東北ブロック統一し8ブロックに変更した件を合わせて、各ブロックの出場枠が半分(50%)ないしそれに近い%になるように配慮した

- ・三種目共24チームにする合わせる必要があるのか。フルーレとエペかサーブルという選択になる形になっているのでフルーレを増やして、エペ、サーブルを減らしてはどうか。  
(提案は、三種目同等で考えていると言いながら実際は平等になっていない)

→現在はフルーレと兼ねる形になっている。しかし兼ねないチームのことも考えなければならない。将来はそれぞれ単独で出す形にしたいが、現状では無理があるため、このような形にした

◎三種目24チームの学校対抗とする。出場は一人一種目とする。ただし、当面の間はフルーレとエペまたはサーブルを兼ねることができるとする

- ・地方予選については地方に任せるのが原則であるが、本専門部が方法等を提示する必要があるのではないか。

☆タイムテーブル案について

◎原案で可

☆用具検査の簡易化について

- ・相手に不利になる云々ではなく、安全性を確保するためとした方がよい
- ・カフを追加する
- ・インターハイの検査も簡略化してはという意見が出るのでは？

→本来は選抜も全部検査を実施すべき。日程上無理なので、簡易化する。インターハイについては、変更は考えていない

◎用具検査は、マスク、ジャケット、カフの検査のみ行う

☆監督の兼任について

- ・原案でよいが、その試合については誰が責任を持つのかをはっきりさせるべき。そのためには監督の途中交代も考えなければならない(選手交代と同じ形?)
- ・オーダー交換の監督と試合監督が違う場合が出て来るが?
- ・監督の交代を認めた場合、監督にイエローが出た場合等どうするのか?監督が交代するとイエローが消えてしまうことになる。またイエロー監督が別種目の監督に入った場合は、その種目にイエローがつくのか等、試合管理上望ましくない。審判も混乱する。試合が終わるまでは入れ替えはない方がよい
- ・高体連ルールを無くしたいという趣旨で学校対抗三種目導入を考えた。監督の交代は、新たな高体連ルールを作ることになり逆行してしまう
- ・監督代行を作って、選手交代等を申請させることが必要になる?
- ・監督不在のもとで試合を行わせる場合が出て来る。それを認めるのか?

- ・試合開始時に監督が別の試合に入っていることも想定される。その場合、監督が来るまで進行を止めるのか？
- ・コールに来た監督とベンチに入る監督が違って、事前に申請しておけばよいのではない
- ・監督 I Dに個人名を入れた方がよい
- ・試合監督として登録した者が、前試合に監督としてベンチに入っていて試合が長引き、登録した試合に間に合わない場合はどうするのか？

→その場合は、ルールに従ってイエローの対象となる。最悪、棄権になることもありえる

- ・一種目一人の監督は難しいのか？監督が兼任できるようにすることで試合進行が遅れるのはおかしいのではないか。チームとして出場する以上は、それぞれのチームに監督を付けてもらうスタンスでよいと思う。最大6名必要になる
- ・ルールに従って参加するのか、監督の意向にルールを従わせるかの問題。大会に参加することはルールに従うことを承諾したということ
- ・選抜大会だけ、コールに応じるのが監督以外でも良いにできないのか？

→以前は、総体も監督以外でコールを認めていた。その際、上下を決めた後に監督へメンバーを聞きに行き、メンバー表の提出が遅れ、試合進行が遅れるという悪循環があったために、コールには監督が応じるに変更した経緯がある

- ・選抜大会だけ、監督なしで試合ができるようにしてはどうか？

→新たに高体連ルールを設ける必要があるし、試合中に問題があった場合はどうするのか？責任者となる大人がいない中で試合をするのはどうか

- ・チームキャプテンを決めて、監督代行を行わせてはどうか
- ・事務局担当としては、記載者と試合監督を確認できる状態にして欲しいし、試合進行、審判、相手チームが信用できる状況が欲しいので、1チーム1名の監督が望ましい

◎監督は試合責任者なので試合が始まったら終了までベンチにいないといけない。監督原案の2名を「各校出場チーム数と同数の監督を登録することができる。ただし同一種目で男女出場する場合は、必ず2名登録しなければならない」に変更。試合途中での監督の変更は認めない。ピスト上のコールに応じた監督が最後までベンチに入るとする。メンバー表交換のコール時に試合に入る監督を記入する

☆参加料について

- ・別紙資料について説明あり。参加料を総体に準じて値上げすると、山梨大会は4万5千円となる。3月の奈良選抜をモデルに試算を出した結果、参加料は4万円くらいが妥当だと思われる
- ・総体に準じて値上げしていくと、大幅な余剰金が発生する。余剰金で開催地にピストや審判器等の物品を残すことができるので、総体に準じて値上げでよい
- ・大会予算で消耗品購入や物品の修繕費は認められるが、今の時勢からピストや審判器等高額物品を予算で購入するのは好ましくないのではないか。余剰金の使途で地元が困ることになると思う
- ・2チーム目以降は、半額等の割引措置を取ってはどうか？

→大会2か月前にならないと正確な予算立てができない。開催地が困る

- ・選抜大会は500万円予算で運営できると聞いている。参加料を4万円にすると、この予算を確保できる。4万円固定でよいのではないか

◎運営するのに最低限の予算を確保できる4万円が妥当。山梨大会から当面4万円固定で実施する。ただし予算状況が変化した場合には、値上げも検討する

## ⑤総務委員会提案事項

☆登録方法の変更について（和田）

- ・現在のUSB登録にはいくつかの問題があるため、次年度からメールで登録かHPに登録書式をアップして登録する方式に変更したい
- ・メールは、パスワードが必要になる→登録専用のアドレスを作る

- ・様式 HP アップは、昨年データを要求されることが想定される
- ・学校によっては、USB 使用が禁止されていたり、メールが禁止されているところもある
- ・登録フォームを作れないのか？→業者と相談して、検討したい
- ・日本協会はウェブで登録をしている

◎変更方式については、引き続き検討していく。2月の常任委員会で確定し、次年度より実施する。全国委員には、選抜大会時に登録説明書を付けて送る。その説明を読んで登録手続きを行ってもらえばよい

☆加盟登録費の値上げについて（根岸）

- ・消費税の増税分、選抜大会補助金増額等で70万円ほど予算が足りない状況になっている。今後、選抜大会の変更に伴い表彰物品費も増額されることが予想されるので、現行1万5千円の登録費を2万円に値上げしたい

◎加盟登録費を現行1万5千円から2万円に変更する

#### ⑥都道府県提案事項

1. エリートアカデミーに準ずる選手にも特別枠を設定して欲しい（東京都；田中先生）

→現状では、高体連として特別枠設定はできない。日本協会に対して、JISSの利用規程を明確にしてもらうことを申し入れる

2. 全国選抜大会のエペ・サーブルの導入については地方予選ができないので反対（東京都；田中先生、宮崎県；濱上先生）

→予選の日程については調整をお願いしたい。予算は参加チーム数が増える分、増額される。増額分に対応して欲しい。ブロック単位で出場校を出すと考えて欲しい。つまり各学校に男女3チームずつ出してくれということではない。県で男女各3チームを出してもらえばよい。出せない場合は仕方がない

3. 全国高体連登録のUSBの使用について（岐阜県；鈴木先生）

→総務委員会提案をもって回答とする

#### ⑦27・28年度常任委員について

- ・3月の全国委員会で承認済み。確認をしてください

#### ⑧その他

1. 共催申請方法の変更について 2. 経費削減について

→審議時間する時間が無いので、全国高体連報告をもって説明とする

3. 2020年インターハイ問題について

- ・開催は、かなり厳しい状況にある。種目の限定や日程縮小を含めて開催を依頼して行く。今後、部長、副部長が様々な形で働きかけていきたい

#### ⑨26年度加盟登録について（和田）

- ・状況を確認して欲しい